



ひとりになれる ひとつになれる

(主体性)

(協調性)

世羅町立甲山小学校 対象学年 (5年)

体験活動の種類 自然 交流

体験活動場所・宿泊場所 国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○ 本校は、世羅町の中心部にあり、町役場をはじめとする公的機関の他、病院や銀行、スーパーなどの商店が数多くある一方、昔からの農家も混在する多様な機能や生活環境を持つ地域である。学校の近くには、今高野山や目鏡橋などの歴史的価値の高いものがあり、生活科や総合的な学習の時間等には、現地での学習も数多く行っている。



本校の教育目標である「自ら進んで学び 心豊かに たくましく生きる 児童の育成」をめざし、「夢や志を持ってその実現に粘り強く取り組み、郷土や国を愛する児童を育てる道徳教育の研究」を研究テーマとして、奉仕活動の実施や自作の郷土資料等を活用し、家庭や地域と連携を図りながら、児童の道徳的価値の自覚を深める研究に取り組んでいる。また、「読解力・表現力を高める国語科授業づくり～言語活動の充実を通して～」として、国語科で習得した言語の力を他の教科でも活用できるように「つきたい力」を明確にした授業づくりも行っている。

○校長名：福間 勝也

○児童数 (学級数)：127名 (8学級)

○所在地：世羅郡世羅町大字小世良 69番地 1

○電話番号：0847 (22) 0058

○URL：<http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/kouzan-es/>

【体験活動のねらい】

○海での活動や勤労体験を行うことを通して、主体的に行動する力・責任感を持つ。

○多くの友だちと協力し体験的な活動を行うことを通して、感謝の心・協調性を持つ。

○集団の宿泊活動を通して、思いやりの心・社会ルールやマナーを学ぶ。

○豊かな自然に触れる体験を通して、自然環境を大切にすることを学ぶ。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
9月	【事前学習】				
	・体験活動について (オリエンテーション)	1	総合的な学習の時間	学校	担任 学校職員
	・体験活動と関連させた内容項目学習	1	道徳の時間		
	・目標、係などの役割分担の決定	1	総合的な学習の時間		
	・集団行動に関する指導	4	学級活動		
	・江田島市について	2	社会科		
	・野外炊事の計画	5	総合的な学習の時間		
	・各係による計画・準備	4	総合的な学習の時間		

10月	【体験活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・出発式・入所式等 ・人間関係プログラム ・海の生物観察（ウミホタル・海辺の生物） ・カッター活動 ・家族への手紙 ・野外炊事 ・カキ打ち体験 ・キャンドルのつどい ・ディスクゴルフ ・退所式・到着式等 	3 2 3 3 1 2 2・1 1 2・1 3	学校行事 総合的な学習の時間 理科 体育科 国語科 家庭科 社会科・家庭科 学級活動 体育科・学級活動 学校行事	国立江 田島青 少年交 流の家	学校職員 施設職員 地元漁業 関係者
10月 ～ 12月	【事後学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・お礼の手紙 ・活動のまとめ ・活動報告会に向けた準備 ・体験活動と関連させた内容項目 ・活動報告会（全校・保護者） 	1 3 8 1 1	国語科 総合的な学習の時間 総合的な学習の時間 道徳の時間 総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○海の生物観察（1日目・3日目）

江田島の荒代海岸でウミホタルの観察と海辺の生物観察を行った。江田島市さとうみ科学館の西原館長に指導をお願いした。山に囲まれた生活環境の中にいる児童たちにとって、海での活動は大変興味深く、積極的に海辺の生き物を見つけて触っていた。専門家の方に直接指導していただくことにより、生物の多様性や海の豊かさなどについて体験的に学ぶことができた。



○カッター活動（2日目）

「協調性」を高める重点活動として位置づけた。「カッター活動は大変だ。」と家族や上級生から話を聞いていた児童が多く、活動に対する不安を持つ児童が多かった。しかし、指導員から教わった「全力を出すこと」「素早い行動」を意識して漕ぐことによりカッターが進む手ごたえを実感し、岸に戻った時には達成感でいっぱいになり、4日間の中で一番心に残ったという児童が多かった。



○野外炊事（2日目）

4日間の体験活動の中で最も「主体性」「協調性」を高める重点活動として位置づけた。

事前学習として、カレー作りに必要な材料や道具の計画と役割分担を話し合っ決めてさせた。また、マッチ1本と新聞紙1枚で火をつけるにはどうしたらよいか考えさせたり実際に練習させたりした。

当日は、薪割りは職員がそばにいて見守ったが、マッチ1本と新聞紙1枚だけで火をおこしたり、ご飯を炊いたり、カレーを鍋で煮たりすることなどは、すべて子どもたちだけで行った。薪に火が燃え移らなくて枯れ葉を集めに行ったり、何度も何度も釜のふたを開けてご飯が炊けているか確認したりしながら、自分たちの力だけでカレーライスを作った。炭の付いた鍋もきれいに洗い、最後の片づけまでやり切った達成感は大きかった。



【体験活動の効果を高める事後指導】

○お礼の手紙

お世話になった江田島青少年交流の家、さとうみ科学館、カキ打ち体験をさせていただいた業者の方に、体験して心に残ったことや感謝の思いをカードに書き、お礼状として送った。

ぼくが教わったことで心に残ったことは、「全力で楽しく協力してがんばる」という一言です。心に残ったし、やる時は全力を出し合っってがんばるようにしたら、すごく楽しかったです。（児童のお礼状より）

お礼状



○活動報告会

全校児童と保護者に3泊4日の様子や体験活動を通して学んだことを報告するために、9グループに分けて分担し、プレゼンソフトを活用してまとめた。報告する内容から写真選びやパワーポイントを使っつてのまとめまで、すべて児童たちが話し合っつて決定した。活動内容を報告するだけでなく、自分たちが体験して学んだことを後輩に伝えるワンポイントアドバイスを加えるように助言をした。

児童が作成したプレゼンの一部

感想

ディスクゴルフは
班の協調性を
高めるのにぴったり！
みんなでやっつて、より楽しかった。



全校朝会での報告の様子

【交流先や施設との連携】

○事前

- ・下見を行い、担当者の方と打ち合わせを行い、スケジュールの変更や活動の具体的な内容について話し合った。また、現地視察や状況の確認なども行った。
- ・施設の担当者や体験活動指導者の方と電話やメールで打ち合わせをしながら準備を進めた。

○活動中

施設担当者と学校の連絡担当職員が活動内容の確認をその都度行った。

○事後

お礼状を出すとともに、次年度の宿泊体験活動について連携した。

【評価の工夫】

- 活動のしおりの中に1日の活動を振り返り、書きこむようにした。また、振り返りをする時間を設定し、それを基に班会議をして、班としての振り返りと次の日のめあてを持たせるようにした。班会議で出た意見はリーダー会で交流し、よさやがんばりを認め合い、次の日への意欲を高めるようにした。

活動の振り返り

「主体性」「協調性」についての振り返り

15 学習資料・メモ

【10月1日（火） 第1日目】
～自分自身をふり返ってみよう～

☆ 自分で考え、主体的に行動する。
☆ 自分の役割を自覚し、友だちと協力して活動する。
どうだったかな？

活動名（AKGチームワークアップタイム）
友達と協力して、かえりながらふり返り、自分で考えて、主体的に行事することになった。

自分の満足度は？ 当てはまるところに○を してみよう	とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
自分で考え、主体的に行動する。	○			
自分の役割を自覚し、友だちと協力して活動する。	○			

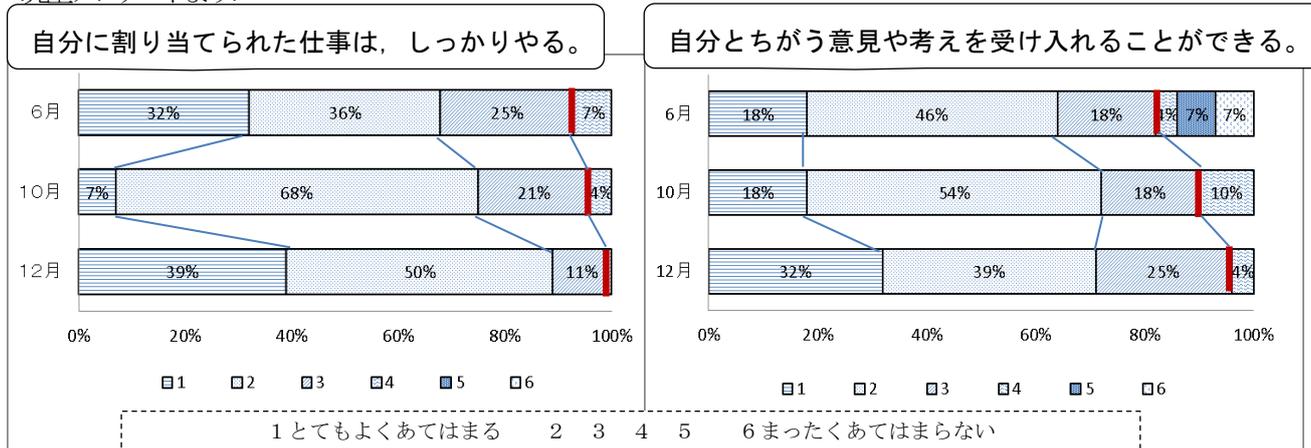
自由にかこうコーナー
前もって集まる。(つよい) (体操(集会係))

1日の生活の振り返り

一日のふり返り

全体的に行動することができてよかった。
ウミホタルの光がものすごくきれいだった。
でも覚えていもうた光だった。
AKGでみんなと入るのは初めてだったから楽しかった。
みんなと一緒になるとすごく楽しかった。
ぐっすりおむわけてよかった。

<児童アンケートより>



○「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる。」という項目については、体験活動直後と12月を比較すると、活動直後より12月の方が「よくできた」と自己評価するポイントが上昇している。これは、体験活動中に意識した「主体性」が定着し、日常生活で実践できていると感じる児童が増えた結果と考えられる。

○「自分とちがう意見や考えを受け入れることができる。」項目については、「あてはまる」（1～3）と肯定的評価の割合が、体験活動前の6月では82%だったが、体験直後の10月では90%、12月には96%に上昇した。これも体験活動中に友だちの意見に耳を傾け受け入れるよさを感じたことが、日常生活の中で生かされていると感じる児童が増えた結果と考えられる。

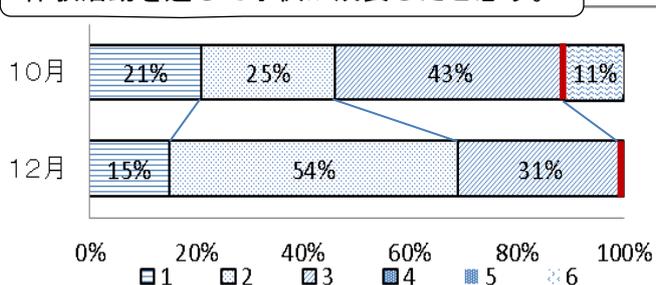
【安全面の配慮事項】

- 現地の下見（周辺環境・危険箇所・緊急時受入医療機関の確認）
- 参加児童の健康状況把握（保護者アンケートによる持病や服薬，アレルギー等の確認・事前健康診断）
- 緊急車両の待機

【体験活動の成果と課題】

- 保護者のアンケートを見ると、「体験活動を通して子どもが成長したと思う。」の項目で、10月の活動直後では89%、12月には100%の保護者が肯定的な評価をされていた。家庭でも児童の成長ぶりが保護者の目に見えてきていることが伺われる。

体験活動を通して子供が成長したと思う。



1 とてもよくあてはまる 2 3 4 5 6 まったくあてはまらない

保護者から次のような感想をいただいた。

<保護者アンケートより>

- ・常に活動の目的を意識させていたので、多くの児童が主体性・協調性などの力が身に付いたと実感し、体験活動をやり終えた達成感を感じていた。
- ・学校では味わうことのできない自然の中での直接体験は、児童の感性を揺さぶり、心を育てるよい経験となった。

<保護者の感想>

- ・今まで言わないとできていなかった事も自分で考えてできるようになってきた。周りの人に気配りができるようになってきた。
- ・友達への思いやりの気持ちが話の中で一番多く、とっても楽しかったのだと思います。友達と共感できる、楽しんで行動できる事は、大きな成長だと思いました。
- ・5年生になって積極的にいろいろなことに挑戦するようになったと思う。すばらしいと親ながら思う。1年間の中で体験活動後にそう思うようになった。

<児童の感想>

協調性については、カッター研修や野外炊事などで協力できたと思う。主体性については、カッター研修ですばやい行動ができたと思う。

心に残ったことは、ウミホテルの観察と海の生き物観察。理由は、世羅町の周りには海がないから学校などでは川の生き物を観察するが、江田島の周りは海だから海にしかないいろいろな魚や貝を観察することができたからだ。

分かったことは、江田島でのきびしさだ。理由は、やさしかった〇〇さんがカッター研修の時にとてもきびしくなっていたからだ。こぐときにも、大きな声で言わないとおこられてしまう。でも大きな声で言って上手だったら、ほめられた。きびしかった人にほめられるから、ふつうにほめられたときより倍うれしいから、そのこともいろんなところで生きると思う。言われる前に自分がまずやることの大切さを、カッター研修でおこられたり、ほめられたりしたことで分かった。

- △ 実施計画を立て始める時期が遅く、夏休み中にあわただしく連携をとることになってしまった。新年度の体制が決定したらすぐに連携を図り、見通しを持って計画が進められるようにしていく。
- △ 体験活動で身に付けた力を日常生活の中で生かしていくために、事前および事後指導で学習して確認したことを継続的に実践していくことが大切である。